

故・森健志郎館長を偲ぶ

高知県 建設/総合技術監理部門

右城 猛

(株) 第一コンサルタンツ



1. まえがき

高知県立坂本記念館館長の森健志郎氏が、今年の11月2日に胸部大動脈瘤破裂で急逝した。享年73歳であった。

森館長は森直樹会員の実兄であったことから、これまで講演や坂本龍馬記念館の施設見学で随分とお世話になった。それらを簡単に振り返ってみたい。



サンライズホテルでの講演(2006年)

2. 高知県技術士会創立 20 周年記念

平成18年11月22日、日本技術士会中・四国支部の牧山支部長や四県技術士会の鎌田会長らをお招きし、高知県技術士会創立20周年記念式典をサンライズホテルで行った。

このときの特別講演を、森健志郎氏にお願いした。演題は「変わりゆくシルクロードー本当の幸せとはー」。

森氏は平成14年、60歳で高知新聞社を定年退職後、中国・新疆ウイグル自治区ウルムチの新疆大学に語学留学。漢語2年課程を修了されている。平成17年に龍馬記念館の2代目館長に就任した。

講演内容は、ウルムチでの留学体験。撮影した画像を収録したCDを持参されていたが、傷が付いて使用不可であった。前の壁に中国の地図を貼って、それだけで1時間の講演をされた。間の取り方、話の構成と展開は見事であった。情景が頭に浮かび、いかにもそこに自分がいるような錯覚に陥った。

これまでに、こんなに分かり易くて面白い講演を聞いたことがない。誰もが森館長の話術に驚いた。

3. 日本技術士会四国支部設立記念

平成22年、(社)日本技術士会中・四国支部から分離独立して四国支部(後に四国本部)が誕生した。

11月24日に高知会館で高知県技術士会の秋の定例総会を兼ねた「日本技術士会四国支部設立記念高知講演会」があり、森館長に講師をしていただいた。

演題は「明治維新と高知」。今年はNHK大河ドラマ「龍馬伝」で龍馬ブーム。龍馬にまつわる最新の情報やあまり知られていない話をたっぷり1時間して頂いた。内容を要約して示すと下記のようなようであった。

①龍馬記念館の年間平均入館者が14万人であったのが、今年は「龍馬伝」が始った1月～10月で既に38万人が訪れている。

②龍馬が高杉晋作からもらったピストルと同型のスミス・アンド・ウェッソンを、今年8月に愛媛の方から譲り受け龍馬記念館に展示していたが、高知県警から拳銃の展示は公務員が管理する場合に限って認められており、銃刀法違反に当たると指摘され展示が取りやめになった。この事態に国家公安委員長が動き、

学芸員が臨時の県職員となることで展示が再開された。

③「龍馬伝」が放送された翌日の月曜日には、その内容がウソであるとの抗議の電話が殺到した。

④龍馬を知るには、龍馬の書いた手紙 140 通を読むのがよい。特に姉乙女に宛てた手紙 18 通を読めば本当の龍馬がわかる。

⑤勝海舟との出会いが龍馬を大きく変えた。海舟の根本の思想である「公平」の影響受け、龍馬の哲学「自由と平等」が生まれた。

⑥台湾の李登輝元総統が龍馬記念館を訪れた際には、「龍馬は私心なく日本のため、人のために命をかけたが、今の日本にはそういう議員がいない」と話した。

⑦大の龍馬ファンであるソフトバンクの孫正義社長が、「龍馬伝」を見てボロ泣きをした。

⑧もし龍馬が生きていたなら戊辰戦争がなく、軍国主義もなく、日清・日露戦争もなく、広島や長崎の原爆もなかっただろう。

村山保顧問から「龍馬の話で初めて感動した」という言葉があるなど質疑応答も活発で、講演会は大いに盛り上がった。この続きの話を聞きたいとの声に参加者から多数上がった。



高知会館での講演(2010年)

4. 日本技術士会四国本部高知例会

平成 23 年 11 月 26 日、高知県技術士会秋の例会を兼ねて日本技術士会四国本部高知例会を開催した。

その翌日、坂本龍馬記念館を見学し、桂浜荘で『坂本龍馬を語る』と題し、「NHK 大河

ドラマ龍馬伝」「司馬遼太郎の竜馬がゆく」「李登輝」「孫正義」「大政奉還」について 60 分にわたり話しをしていただいた。

①NHK 大河ドラマ「龍馬伝」の影響で、昨年の年間入館者数は 40 万人を突破。花巻市にある宮沢賢治記念館の年間 15 万～18 万人を超えて日本一になった。

②龍馬記念館の特徴は、県外のリピーターが多いこと。10 回以上の来館が普通。入学、卒業、就職、結婚、退職など人生の節目、節目に来て龍馬に報告してゆく。高知県人の入館者は全体の 5%程度と少ない。

③龍馬のことを最も詳しく書いているのは、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」。トラック 2 台分の資料を基に書かれた。

④龍馬が脱藩するまでの記録は何も残されていない。記録があるのは、暗殺されるまでの 5 年間だけ。龍馬のことを知るには、「竜馬がゆく」を読むのが良いが、全八巻ある。時間がなければ乙女宛の手紙を読むことをすすめる。(森館長は、乙女宛の手紙を紹介するときでも原稿を見ない。丸暗記されている)。

⑥高知県人は龍馬についてあまり知らない。都会の人は、通勤時の電車の中で本を読むことができるが、高知では数分で職場に着く。夜は酒を飲まなければならない。本を読む時間がない。

⑦台湾の元総統・李登輝が 2 年前、88 歳の時に奥さんと一緒に龍馬記念館に来た。180 センチを超える長身。背筋をぴんと伸ばし、黒のスーツに黒のサングラスをかけて颯爽と現れた。「ニー・ハオ」と中国語で挨拶しようとしたところ、流暢な日本語で先に「森館長、お世話になります」と挨拶された。日本で教育を受けておられるので日本語が達者。

⑧職員は、李登輝の来館に備えて展示物を説明する準備をしていたが、李登輝ご自身で奥様に説明された。とても詳しく、職員がメモを取るほどであった。枕草子など日本の古典文学もよく勉強されていた。

⑨現在の政治の乱れについて意見を求めると、「龍馬のように志を持ち、命をかけられる政治家がいなくなった。私心があるといけない。大統領の時に私は龍馬をお手本にした」と話された。

⑩龍馬生誕175年の前日に当たる2010年11月14日の日曜日、「高知市文化プラザかるぽーと」でソフトバンクの孫正義社長と尾崎正直知事と森健志郎で座談会を行った。

⑪ホークスの野球の試合が福岡であり、それを孫社長も観戦されるという情報を得たので、福岡へ飛んで行って、座談会への出席をお願いした。分刻みのスケジュールで動いている超多忙な人であるにも関わらず承諾を得ることができた。「人間にとって本当の幸せとは何か」というテーマを気に入っていただき、出演を承諾してもらえた。

⑫孫社長は、人生の転機や決断のとき、悩んだとき、全8巻ある司馬遼太郎の「竜馬がゆく」を少なくとも5回は読んでいる。16歳のときに高校を中退してアメリカへ渡った。それを決断させたのは龍馬であった。苦しみから這い上がって家族を救い、みんなと同じ日本人であるということを証明するにはアメリカに行くしかなかった。孫社長は、土佐を脱藩した龍馬と自分をダブらせている。

⑬勝海舟は侍の家に生まれたが、身分が低くて貧しかった。出世をするには大変な努力が必要であった。この経験から勝は、身分に関係なく良い意見であれば誰の意見でも採用した。公平の大切さを知っていた。

⑭坂本家は高利貸しをしていたので金には不自由していなかったが、長宗我部氏の旧臣(下士)であったので、山内家の武士(上士)から差別を受けていた。この経験から龍馬は身分差別のない平等な社会を作りたいと願っていた。

⑮明治維新は、ペルーが黒船に乗って浦賀に来航した年から明治元年(1868年)までの15年間を指す。ジョン万次郎が日本に帰ってき

たのは、大政奉還が始まる2年前。万次郎は、アメリカで民主主義や男女平等の概念に触れる一方、人種差別を経験していた。

⑯勝海舟、坂本龍馬、ジョン万次郎の3人が出会ったことで歴史が動いた。大政奉還ができた。



桂浜荘での講演(2011年)



シェイクハンド龍馬像の前で森館長を囲んで記念撮影(2011年)

5. 平成24年度太平洋・瀬戸内海・日本海縦断技術士会

岡山県、香川県、島根県、鳥取県、高知県の5県の技術士会が、「太平洋・瀬戸内海・日本海縦断技術士会」と称し、各県持ち回りで勉強会と懇親会を行っている。

平成24年年度は「よさこい祭り」が始まる8月9日に高知市のサンピアセリーズで、「自然エネルギーと高知県の歴史」のテーマで開催した。

自然エネルギーについては、高知県小水力利用推進協議会の篠和夫会長と梶原町の矢野

富夫町長に「小水力発電」のテーマで話していただいた。高知県の歴史に関しては高知県歴史民俗資料館の宅間一之館長に「長宗我部元親」と題して、坂本龍馬記念館の森館長に「坂本龍馬を取り巻く最近の話題」と題してそれぞれ講演をいただいた。

6. 第19回西日本技術士研究・業績発表年次大会

この大会は、近畿、中国、九州、四国の地域本部の技術士が一堂に集い、日頃の研究・業績の成果を発表し合い交流を深めるために、各本部持ち回りで毎年開催されている。

平成25年度は、「地域存続に向けた相互扶助と技術士に期待されるもの」をテーマに10月25日と26日の2日間にかけて高知市で開催された。

初日のテクニカルツアーは桂浜坂本龍馬像および坂本龍馬記念館の見学、森館長による「今なぜ龍馬か」の講演を行った。

講演の内容は、博物館としての機能を備えた資料館の建設計画、8月に開催された子ども・龍馬フォーラム、公平を思想とする勝海舟と龍馬の出会い、李登輝元台湾総統が記念館を訪れたときの話、坂本龍馬財団で台湾の李登輝さんを訪ねた話など興味深いものであり、楽しい充実した時間を過ごすことができた。

7. あとがき

平成27年11月6日の告別式には、玉串を献げる弔問客で長蛇の列が出来た。

弔辞は、森夫妻が仲人をしている高知新聞社の宮田速雄社長が読まれた。弔辞に続いて、台湾の李登輝元総統、ソフトバンクの孫正義社長、NHK大河ドラマ「龍馬伝」の大友啓史監督の弔問文が紹介された。森館長の偉大さと人脈の広さには改めて驚かされた。

11月15日の龍馬生誕180周年記念日には、桂浜の龍馬像と龍馬記念館前のシェイクハン



逝去する前日の森健志郎館長(前田由紀枝さん撮影)



坂本龍馬像の前で挨拶をする孫正義社長

ド龍馬像の間、540mを全国から集まった1100人の龍馬ファンが「ハンド・イン・ハンド」をし、「龍馬さんに誓う現代こころ八策」(森健志郎・作)を全員で唱和した。

- ①家族を大切にしよう。
- ②お年寄り、先生を敬おう。
- ③友だちと仲良くしよう。
- ④思いやりの心を持とう。
- ⑤正々堂々と歩もう。
- ⑥志は高く持とう。
- ⑦勇気を持って行動をしよう。

⑧レッツゴー、ハンド・イン・ハンド!(手をつないで前へ進もう)

ハンド・イン・ハンドのカウントダウンと現代こころ八策の先唱は、森館長の役目であったが、今年は孫正義社長が、森館長が着ていたスタッフジャケットを着て代役をされた。

森健志郎館長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。